大学･高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【高等専門学校】実施状況報告書

選定年度	令和7年度	学校コード	G118110105666	改組内容	学科･コース等の設置・増員（高専）
高等専門学校名	福井工業高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	福井高専における情報科学･情報技術×デザインマインドで未来社会を創造する高度情報専門人材育成事業
学校種	高専	都道府県	福井		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和7年度	【令和7年4月1日時点の入学定員】 電子情報工学科 40名 情報融合コース（定員40名）設置認可申請 12月 数理･データサイエンス･AI教育プログラム認定制度「応用基礎レベル」申請	【令和7年4月1日時点の入学定員】 電子情報工学科 40名 4月 未来社会デザイン工学科　情報融合コース（定員40名）設置認可申請 5月 数理･データサイエンス･AI教育プログラム認定制度「応用基礎レベル」申請	令和7年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	① 4月 改組後の教育カリキュラムの検討 ~~③ 6月 情報系および情報融合コース担当教員（助教）2名及び事務補佐員2名採用活動~~ ② 6月 情報系および情報融合コース担当教員（助教）2名採用活動（R8.2.26承認） ③ 6月 改組の説明のための中学校訪問 ④ 12月 新カリキュラム対応のための教務システムの改修	① 4月 改組後の教育カリキュラムの検討 ② 6月 情報系および情報融合コース担当教員（助教）2名採用活動の結果、令和8年4月1日付で情報系および情報融合コース担当教員（助教）1名採用、残り1名は採用活動継続。 ③ 6月 改組の説明のための中学校訪問 ④ 2月 新カリキュラム対応のための教務システムの改修		
令和8年度	４月 未来社会デザイン工学科 情報融合コース設置（定員40名）	４月 未来社会デザイン工学科 情報融合コース設置（定員40名）	令和8年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月 情報融合コース プログラミング基礎の準備 ②４月 コンピュータサイエンスコース １年目 開始 ③３月 情報融合コース増員のためのi-コース棟新営工事（竣工予定日：R9 12月）			
令和9年度			令和9年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月 情報融合コース プログラミング基礎開講 ②４月 コンピュータサイエンスコース ２年目 開始 ③７月 情報融合コース増員のためのi-コース棟新営工事完了			
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月 情報融合コース IoT基礎 開講 ②10月 情報融合コース IoT演習 開講 ③４月 コンピュータサイエンスコース ３年目 開始			
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
	①10月 情報融合コース 情報プロジェクト演習他 開講 ②４月 コンピュータサイエンスコース ４年目 開始			
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
	①４月 情報融合コース 完成年度 ②４月 コンピュータサイエンスコース 完成年度 ③３月 カリキュラム見直し			
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
	①情報系および情報融合コースのカリキュラムを継続			
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
	①情報系および情報融合コースのカリキュラムを継続			
令和15年度			令和15年度自己評価	リストから選択してください。
	①情報系および情報融合コースのカリキュラムを継続			
令和16年度			令和16年度自己評価	リストから選択してください。
	①情報系および情報融合コースのカリキュラムを継続			

フォローアップ対象年度	令和7年度	高等専門学校名	福井工業高等専門学校

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。

⑧ 機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。

⑨ 計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

⑩ 国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

⑪ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

⑫ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。

上記項目の①～⑪の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
すべての項目が要件を満たしている											

①～⑪の要件を満たしていない又は対象でない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑫については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑫文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。	認定を受けている

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
４学年のほぼ全学生が、長期インターンシップ（校外実習）を企業・官公庁・大学と連携して実施している。令和５年度の実績は、学生188名　受入先企業及び大学158社5校であった。 新設する情報プロジェクト演習は、地域企業・官公庁と連携して企業の課題解決を情報技術を用いて行うPBL型授業を予定している。 そのほか、JST「ジュニアドクター育成塾」事業及び後続のJST「次世代科学技術チャレンジプログラム」では、地域企業の協力を得て講座の開講や探究活動を実施したり、地域のIT企業の社員に本校主催の福井高専ビジネスアイデアコンテストのメンター及び審査員を務めていただくなど企業・官公庁と連携したものづくり教育を実施する。 また、KDDI、jig.jp（ソフトウェア開発企業）、エル・コミュニティ（地域活性化NPO）と連携協定を結び、福井高専における１．先端技術教育と研究（5G、IoT、AIなどの先端技術に関する教育及び研究、プログラミング教育における先進的モデルの構築）、2. 地域のイノベーション人材及び起業家人材の育成（イノベーション人材及び起業家人材育成のための環境やカリキュラム構築などに関する協働）、3. 社会課題解決のためのPBL（Project Based Learning）型授業の推進（オープンデータを活用した新規事業の検討や地域活性化）、4. グローバル化の推進（グローバル人材輩出のための環境などの検討及び整備）を実施し、高度情報人材育成を推進する。	４学年のほぼ全学生の177名が130社8大学8機関で長期インターンシップ（校外実習）を実施した。 情報プロジェクト演習を、令和11年度の開講に向けて地域企業・官公庁と連携して企業の課題解決を情報技術を用いて行うPBL型授業としてシラバス案を作成した。 JST「ジュニアドクター育成塾」事業を、地域企業の協力を得て講座の開講や探究活動を実施した。本校主催の福井高専ビジネスアイデアコンテストでは、KDDI、jig.jp（ソフトウェア開発企業）、エル・コミュニティ（地域活性化NPO）との連携協定を活用して、メンター及び審査員を務めていただいた。また、さくらインターネットと連携したAI開発講座を実施した。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
小学校で簡単なゲームプログラミングを行う出前授業を年15件程度、小・中学生を対象とした「生成AI活用リテラシー」「はじめてのロボットプログラミング」「MRとVRで建築を体験しよう」「スマートフォン向けのWebゲームアプリを作ろう」などの公開講座を年18件程度開講する。 また、本校はJST「ジュニアドクター育成塾」事業に採択されており、毎年40名の小中学生を対象にプログラミングやデジタルツール活用などを含む30件程度の講座を開き、更に10名の学生の研究指導を実施するなど小中との連携を積極的に行っている。この事業の次のステップとしてJST「次世代科学技術チャレンジプログラム」に応募し、小中学校と連携した教育を更に推進することを計画している。更に本事業で人気のある講座を科学体験イベントとして学外施設で開講し、小中学生に科学の楽しさを知ってもらう機会を設ける。 そのほか、本校を会場に越前市及び越前市教育委員会と共同で小中学生が多数参加する越前市ロボットコンテストを開催したり、福井県歯科医師会との協賛で小学生を対象とした歯みがきをテーマにしたロボットコンテストを開催している。加えて、県内で探究型学習が人気となっている実態を踏まえ、探究型学習で多くの実績のある本校が県内の小中高等学校の理科教員等に対してリスキリング教育を実施するなどして連携を深めることを計画している。	出前授業を10件、公開講座を16件開講した。 JST「ジュニアドクター育成塾」事業の次のステップとしてJST「次世代科学技術チャレンジプログラム」に応募した。ジュニアドクター事業で人気のある講座を、令和8年1月に科学体験イベント「冬休みこどもサイエンス」として、福井駅前の複合施設で開講した。 令和7年度も越前市ロボットコンテストを開催したり、福井県歯科医師会との協賛で小学生を対象とした歯みがきをテーマにしたロボットコンテストを開催した。加えて、3Dプリンタ、レーザーカッター、協働ロボットなどの活用方法を学ぶリスキリング教育講座を6件開講した。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
【女子学生の確保】オープンキャンパス等で女子中学生・保護者向けOG懇談会、女子学生との交流会を開催するなど、女性エンジニアや女子高専生のロールモデルとの対話を通じ将来像に安心感を持ってもらう取り組みを実施する。また、女子中学生向けパンフレットを継続的に更新して発行する予定である。また、本校女子学生による鯖江市JK（女子高校生）課などの活動を通して地域の活性化に貢献し、福井高専の女子学生のプレゼンスを広くアピールしていく。また、女子寮を設置しており女子学生の居住環境を整備している。更に、福井大学と連携し女子中高生の理系進路選択プログラム（事業）に応募する予定である。加えて、福井県と連携して、これまで以上に地元志向のニーズに対応可能な進路選択支援策を推進する予定である。 【留学生の確保】タイ高専からの留学生を定期的に受け入れる計画となっている。そのほか、タイのプリンス・オブ・ソンクラー大学及びキングモンクット工科大学ラカバン校からの短期留学生を毎年継続的に受け入れる体制にある。また、国際寮の新設により留学生の居住環境を整備している。	【女子学生の確保】5月実施のオープンキャンパス（キャンパウォーク）における本校関係者との交流コーナーに女子学生とOGを配置して、女子中学生・保護者向けの懇談会および交流会を開催した。、女子中学生向けパンフレットを継続的に更新して発行し、各中学校へ配布した。鯖江市JK課に所属する本校学生によるフードドライブ活動が行われた。女子中高生の理系進路選択プログラム（事業）へ応募について検討した。加えて、福井県の実施する未来協働プラットフォームふくい事業を活用して、地元志向のニーズに対応可能な進路選択支援策を推進している。 【留学生の確保】教員2名がプリンス・オブ・ソンクラー大学を訪問し、相互交流について協議し、留学生受け入れの案内を先方に送付した。	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
近隣地域の大学・高専（金沢大学、福井大学、石川高専）におけるデジタル教育連携事業を活用し、AI×宇宙技術教育プログラム（「AI-STEP」など）による高度情報人材の育成を推進する。そのほか、高専間連系科目やE-HELPを活用して他高専の授業科目を受講できるように連携する。 Society 5.0により実現する未来技術をリードする高専発！「Society 5.0型未来技術人財」育成事業におけるGEAR 5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）およびCOMPASS 5.0 （次世代基盤技術教育のカリキュラム化）に参画し、高専ネットワークを活用して教材開発や教育実践を実施しIoTやロボット利活用に関する地域密着型・課題解決型・社会実装型の教育を推進する。また、高専間の研究ネットワーク形成支援事業「この指とまれ」を活用して協働ロボットの制御技術や、LiDAR SLAMやGISといった空間情報技術など複数の研究テーマで他高専と連携を行い、科学研究費補助金の応募に繋げる。 2024年にタイのプリンス・オブ・ソンクラー大学と学生交流に関する覚書を交わし、情報学部を含むキャンパスと相互の交流が行う計画がある。また、台湾等の複数の大学と同様の展開を計画している。	福井大学と連携してデジタルツインに関する講座を実施したり、重慶理工大学（中国）を加えて「健康と社会福祉分野におけるAI活用」に関するシンポジウムを開催した。また、高専間連系科目やE-HELPによる授業科目を学生へ周知した COMPASS 5.0 （次世代基盤技術教育のカリキュラム化）のIoTやロボット分野へ協力校として参画し、ワークショップへの参加を経て開発教材を活用した高度情報人材育成のためのカリキュラムを計画した。また、高専間の研究ネットワーク形成支援事業「この指とまれ」に本校から5件のテーマを申請し、積極的に他高専と連携を進めた。 令和7年(2025年)8月に、電子情報工学科出身の専攻科1年生2名が、タイのプリンス・オブ・ソンクラー大学プーケットキャンパスの情報学部において1ヶ月間のインターンシップを行なった。さらに、教員2名がプリンス・オブ・ソンクラー大学を訪問し、相互交流について協議し、先方からの受入体制を整備した。また、令和8年度にタイ高専との国際交流に関するMOUの締結を計画した。	

⑦ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本校は、2024年度に全学科において数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の「リテラシーレベル」に認定されている。「応用基礎レベル」についても現在のカリキュラムで要件を満たしており、実績を積むことで応募可能となるため次年度の認定を目指して申請準備中である。	令和7年(2025年)5月に、本校教育プログラムを「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」へ申請し、同年9月に認定された。	

高等専門学校名	福井工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）	本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる情報系組織の状況

<内訳>

(1)

改組組織名	未来社会デザイン工学科

		年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		改組状況		選定・認可	開設																	
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	80																	
		編入学定員	人	-	0																	
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	80																	
		入学者数(B)	人	-	80																	
		女子学生数	人	-	18																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	0																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	1.00																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	80																	
		編入学定員	人	-	0																	
		在籍者数(D)	人	-	80																	
		編入学者数	人	-	0																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	1.00																	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-																		
		就職者数	人	-																		
		進学者数	人	-																		
		その他	人	-																		
		進路不明	人	-																		
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	11																	
		授業科目の単位数	単位	-	23																	

高等専門学校名	福井工業高等専門学校	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）

２.情報系組織の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度 選定	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	-	80																	
		入学者数（B）	人	-	80																	
		女子学生数	人	-	18																	
		社会人学生数	人	-	0																	
		留学生数	人	-	0																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	1.00																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	240																	
		編入学定員	人	-	0																	
		在籍者数(D)	人	-	239																	
		編入学者数	人	-	2																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	1.00																	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-																		
		就職者数	人	-																		
		進学者数	人	-																		
		その他	人	-																		
		進路不明	人	-																		
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	13																	
		授業科目の単位数	単位	-	63																	

高等専門学校名	福井工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

３.高等専門学校全体の状況

年度				R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
大区分	小区分	項目	単位																			
	入学者合計	入学定員（A）	人	-	200																	
		入学者数（B）	人	-	206																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	1.03																	
	収容定員等	収容定員（C）	人	-	1,000																	
		編入学定員	人	-	0																	
		在籍者数（D）	人	-	983																	
		編入学者数	人	-	12																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	0.98																	

４.外部資金の状況（全学）

年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	120,888																		

特記事項

・「１．本事業対象となる情報系組織の状況」令和7年度欄は、8年度の開設のため、いずれも「-」と入力としています。
・「１．本事業対象となる情報系組織の状況」令和8年度における事業計画に定める定員欄の編入学定員0は、若干名を示します。
・「１．本事業対象となる情報系組織の状況」令和8年度における入学者合計の女子学生数18は、未来社会デザイン工学科情報系女子8名に入学当初は他の系（機械系、電気電子系、材料・生物系、都市・建築系）の配属で2年末にコース決定を行い、3年次からiコース（情報融合コース）配属となる40名に女子比率を反映させた仮の数字です（確定次第更新いたします）。
情報系合格者女子8名＋iコース40名×（情報系を除いた女子比率）＝8＋40×0.25＝18名
・「１．本事業対象となる情報系組織の状況」令和8年度における社会人学生数は、本科（准学士課程）では定員を設けていないため「-」としています。
・「１．本事業対象となる情報系組織の状況」令和8年度における収容定員等欄の編入学定員0は、若干名を示します。
・「１．本事業対象となる情報系組織の状況」におけるその他の0は、該当者なしを示します。
・「２．情報系組織の状況」令和8年度における入学者合計の社会人学生数は、本科（准学士課程）では定員を設けていないため「-」としています。
・「２．情報系組織の状況」令和8年度における入学者合計の女子学生数18は、未来社会デザイン工学科情報系女子8名に入学当初は他の系（機械系、電気電子系、材料・生物系、都市・建築系）の配属で2年末にコース決定を行い、3年次からiコース（情報融合コース）配属となる40名に女子比率を反映させた仮の数字です（確定次第更新いたします）。
・「２．情報系組織の状況」令和8年度における収容定員等の編入学定員0は、若干名を示します。
・「２．情報系組織の状況」令和8年度における卒業後の状況は、調査時点では未定のため空欄としています。
・「３．高等専門学校全体の状況」令和8年度における収容定員等の編入学定員0は、若干名を示します。